

1 4	受験番号シール貼付欄

第 1 問 答案用紙<1> (会 計 学)

問題 1

問 1

2,830 円

問 2

②	232,000	③	43,000	④	275,000
⑤	82,000	⑥	290,000	⑦	208,000

問 3

(1)

補助部門である保全サービス部門の操業度差異は、製造部門の保全サービスの利用実績が予定を下回ったことにより発生したものであり、保全サービス部門にとって管理不能な差異だからである。

(2)

保全サービス部：	0 時間
第 1 製造部：	0 時間
第 2 製造部：	100 時間

問 4

(1)

変動費の配賦基準：保全サービスの利用実績

固定費の配賦基準：保全サービスの消費能力

(2)

欠陥 1：実際配賦額は、他の製造部門における補助部門用役消費の多少によって左右されてしまう。

欠陥 2：実際配賦額の中に補助部門における原価管理活動の良否が混入してしまう。

問 5

(1)

第 1 製造部への配賦額の増減：	112,000 円
第 2 製造部への配賦額の増減：	30,000 円

(2)

保全サービス部で発生する固定費は、保全サービス部における保全サービス供給能力の維持費であり、その発生額の大きさは保全サービス供給能力の規模に依存する。保全サービス供給能力の規模は、その保全サービスを消費する関係部門の保全サービス消費能力によって規定されるからである。

$\frac{2}{4}$	受験番号シール貼付欄

第 1 問 答案用紙<2> (会 計 学)

問題 2

問 1

完成品原価	3,002,750 円	月末仕掛品原価	316,000 円
異常仕損費	52,650 円	売上総利益	1,975,000 円

問 2

③	3,002,246	④	106,343	⑤	52,680
---	-----------	---	---------	---	--------

問 3

処理： エ

根拠：異常仕損費は、異常な状態を原因とする価値の減少であるため、非原価とされるが、すべて機械の整備不良による故障が原因であるため、経営管理者にとって管理可能であり、営業外費用処理する。

問 4

(1)	総合原価	(2)	作業くず、仕損品
-----	------	-----	----------

問 5

⑨	ク	⑩	エ	⑪	セ	⑫	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---

ICOフィードバック解説

第1問

問題1

実際部門別個別原価計算(固定予算・単一基準配賦法と変動予算・複数基準配賦法)からの出題である。計算は、伝統的な入門レベルの簡単な内容でした。また理論も典型的な入門レベルの出題でした。入門の授業をしっかりと学習された方には高得点が取れたでしょう。誰もが解答できる内容なので、いかに効率よく解答できたかがポイントになります。18点から20点の高得点が予想されます。したがって、この問題を落とすと合格は難しくなります。

問1

1. 保全サービス部費の実際発生額の計算

保全サービス部費の実際発生額は、補助部費を実際配賦しているため、各製造部への配賦額の合計となる。

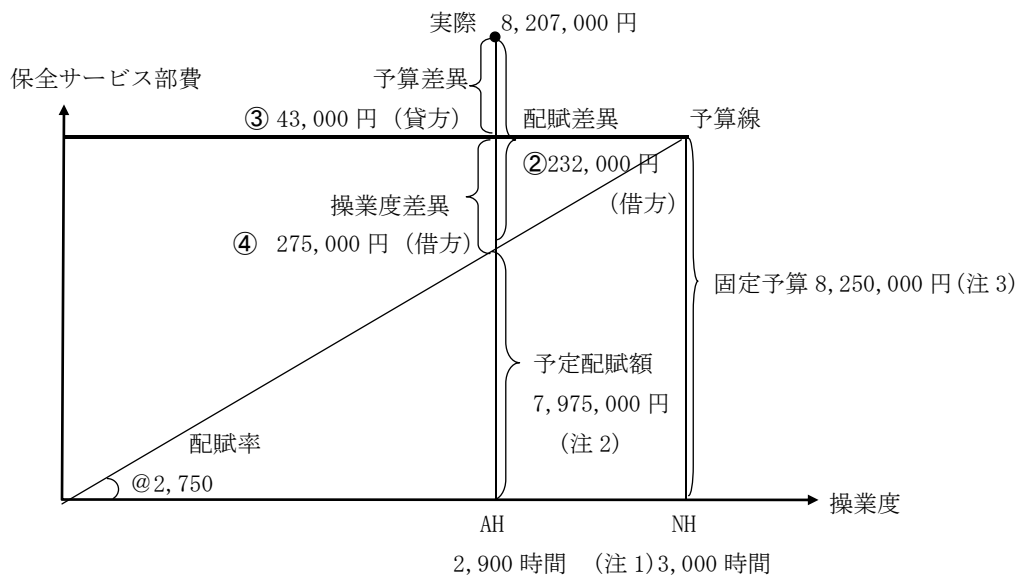
第1製造部配賦額 3,962,000円 + 第2製造部配賦額 4,245,000円 = 8,207,000円

2. 保全サービス部費実際配賦率の計算

実際配賦率： $\frac{\text{実際発生額 } 8,207,000 \text{ 円}}{\text{実績稼働時間 } 2,900 \text{ 時間}} = \boxed{2,830} \text{ 円/h}$

問2

1. 保全サービス部の配賦差異分析(固定予算・単一基準配賦法)



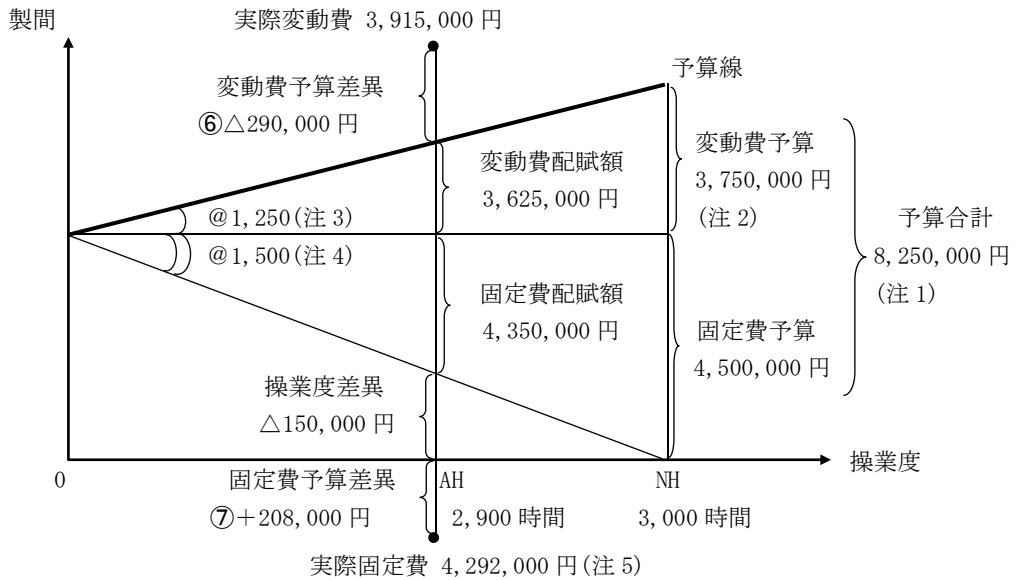
(注1) 第1製造部 1,400時間 + 第2製造部 1,600時間 = 3,000時間

(注2) @2,750円/h × 3,000時間 = 8,250,000円

(注3) @2,750円/h × 2,900時間 = 7,975,000円

(注4) 第1製造部 3,962,000円 + 第2製造部 4,245,000円 = 8,207,000円

2. 保全サービス部の配賦差異分析 (変動予算・複数基準配賦法)



(注1) 予定配賦率 2,750円 × 基準操業度 3,000時間 = 予算合計 8,250,000円

(注2) 予算合計 8,250,000円 - 固定費予算 4,500,000円 = 変動費予算 3,750,000円

(注3) 変動費予算 3,750,000円 ÷ NH 3,000時間 = 1,250円/h

(注4) 固定費予算 4,500,000円 ÷ NH 3,000時間 = 1,500円/h

(注5) 保全サービス部費実際発生額 8,207,000円 - 変動費 3,915,000円 = 4,292,000円

⑤予算差異 : 変動費予算差異⑥△290,000円 + 固定費予算差異⑦+208,000円 = △82,000円

問3

(1) 解答参照。

(2)

部 門	予 定	実 際	差 分
保全サービス部	3,000時間	3,000時間	0時間
第1製造部	1,400時間	1,400時間	0時間
第2製造部	1,600時間	1,500時間	100時間

問4

解答参照。

問5

解答参照。

(1)

A. 第1製造部

単一基準配賦法による実際配賦から複数基準配賦法による予定配賦への変更による配賦額の増減

- ① 単一基準配賦法による実際配賦額：3,962,000円
- ② 複数基準配賦法による予定配賦額

$$\textcircled{2} \quad @1,250 \text{ 円} \times 1,400 \text{ 時間} + \text{固定費予算 } 4,500,000 \text{ 円} \times \frac{\text{第1製造部能力 } 1,400 \text{ 時間}}{\text{供給能力 } 3,000 \text{ 時間}} = 3,850,000 \text{ 円}$$

- ③ 増減額

$$3,962,000 \text{ 円} - 3,850,000 \text{ 円} = \boxed{112,000} \text{ 円 (減少)}$$

B. 第2製造部

単一基準配賦法による実際配賦から複数基準配賦法による予定配賦への変更による配賦額の増減

- ① 単一基準配賦法による実際配賦額：4,245,000円
- ② 複数基準配賦法による予定配賦額

$$\textcircled{2} \quad @1,250 \text{ 円} \times 1,500 \text{ 時間} + \text{固定費予算 } 4,500,000 \text{ 円} \times \frac{\text{第2製造部能力 } 1,600 \text{ 時間}}{\text{供給能力 } 3,000 \text{ 時間}} = 4,275,000 \text{ 円}$$

- ③ 増減額

$$4,245,000 \text{ 円} - 4,275,000 \text{ 円} = \boxed{30,000} \text{ 円 (増加)}$$

第1問

問題2

実際総合原価計算(異常仕損及び正常仕損がある場合の度外視法と非度外視法)からの出題である。計算は、伝統的な入門レベルの内容でした。理論は原価計算基準からの典型的な入門レベルの出題が中心でした。若干、上級の論点もありましたが、文面から何とか解答をひねり出せたのではないのでしょうか。計算問題は、度外視法と非度外視法の両方で解答させる形式で、入門時に何回も行ってた論点だったと思いますので安心して解けたのではないのでしょうか。ただ、非度外視法が一部割り切れないところがあったため、何度も計算されたのではないのでしょうか。ただ上級生は、入門時に解いた内容でしたので忘れてしまっていた受験生もいたかもしれません。いずれにせよ合格のためには、高得点を取りたかった問題でした。18点から20点が合格水準であろう。

問1

1. 度外視法による原価計算表

(単位: kg、円)

	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	数量	金額	金額
当月投入	3,000	2,436,000	2,788	827,400	3,263,400
正常仕損品	120	i) △24,000	30	—	△24,000
差引	2,880	2,412,000	2,758	827,400	3,239,400
月末仕掛品	320	ii) 268,000	160	iii) 48,000	316,000
差引	2,560	2,144,000	2,598	779,400	2,923,400
異常仕損品	60	50,250	48	14,400	64,650
差引	2,500	2,093,750	2,550	765,000	2,857,850
月初仕掛品	200	?	150	?	144,000
完成品	2,700	?	2,700	?	3,002,750

i) 正常仕損品評価額 24,000 円は、問題文より、直接材料費から差し引く。

ii) $2,412,000 \div 12,000 \times 320 = 268,000$

iii) $10,488,000 \div 2,880 \times 320 = 1,368,000$

異常仕損費: 異常仕損品原価 64,650 円 - 異常仕損品評価額 12,000 円 = 52,650 円

2. 売上総利益の計算

(1) 売上高

@製品販売価額 950,000 円/500 kg × 販売ロット 5 (= 2,500 kg ÷ 500 kg) = 4,750,000 円

(2) 売上原価(平均法)

(月初製品 327,250 円 + 完成品原価 3,002,750 円) ÷ 3,000 kg × 販売量 2,500 kg = 2,775,000 円

(3) 売上総利益

4,750,000 円 - 2,775,000 円 = 1,975,000 円

問2 解答を参照。

1. 非度外視法による原価計算表

(単位：個、千円)

	直接材料費		正常仕損費	加工費		合計
	数量	金額	金額	金額	金額	金額
当月投入	3,000	2,436,000	—	2,788	827,400	3,263,400
正常仕損品	120	i) 97,440	v) ④ 106,343 △24,000	30	iii) 8,903	—
差引	2,880	2,338,560	82,343	2,758	818,497	3,239,400
月末仕掛品	320	ii) 259,840	vi) 9,149	160	iv) 47,484	316,476
差引	2,560	2,078,720	73,194	2,598	771,013	2,922,927
異常仕損品	60	48,720	1,715	48	14,245	64,680
差引	2,500	2,030,000	71,478	2,550	756,768	2,858,246
月初仕掛品	200	?		150	?	144,000
完成品	2,700	?		2,700	?	③ 3,002,246

i) $2,436,000 \div 3,000 \times 120 = 97,440$

ii) $2,436,000 \div 3,000 \times 320 = 259,840$

iii) $827,400 \div 2,788 \times 30 \doteq 8,903$

iv) $827,400 \div 2,788 \times 160 \doteq 47,484$

v) $97,440 + 8,903 = 106,343$ ④

vi) $82,343 \div 2,880 \times 320 \doteq 9,149$

異常仕損費：異常仕損品原価 64,680 円－異常仕損品評価額 12,000 円＝ ⑤ 52,680 円

問3 解答を参照。

問4 解答を参照。

問5 解答を参照。

—以上—